

（事 例）

人口約 8 万人の N 市では、現在市内 36 か所で「子育てサロン」が定期的開催されている。このサロン活動は、N 市社会福祉協議会が長く後方支援してきた。

次の事例は、サロンのメンバーであった親子が N 市社協を通じて自立相談支援機関につながったものである。

〈家族構成〉 4 人家族（両親と 2 人の子ども）

母親（A さん）	38 歳	中卒。パート経験あり。現在は無職。
父親（B さん）	42 歳	電気の配線工事の下請けの仕事。収入は不安定。
長男	12 歳	小学校 6 年生。
長女	4 歳	腎臓病の疑いがある。

〔支援経過〕

A さんは 4 歳の長女を連れて、地域の「子育てサロン」に参加していた。この長女の 1 歳半検診の際、A さんの子どもへのかかわりが気になった保健師がサロンへの参加をすすめた。

この「子育てサロン」は、子育て中の母親が集まって楽しい時間を過ごすことを目的としており、登録さえすれば好きなときに自由参加できる仕組みとなっている。週 3 回開催しており、午前 10 時から午後 3 時までサロンとして開放している。子どもたちには遊具を使った遊びや子ども同士の交流の場を提供し、母親には茶話会や子育て勉強会の機会を提供している。A さん親子は、保健師に紹介されて以来ほぼ毎日サロンに顔を出していた。A さんは、サロンでは自分から積極的に話すことは少ないものの、いつもこやかにしている。

ある日、このサロンのリーダーから A さん親子のことについて社協に電話があった。その内容は、「サロンにやってくる A さん親子のことで困っている。まず、親子 2 人ともあまり入浴していないようで非常にくさい。A さんは子どもにジュースやお菓子ばかりむやみに与え、子どもは十分な食事が採れていない様子である。周りのお母さんたちもさすがに心配して、何度も食事のことなどアドバイスしてきたが変化がみられない。昨日のサロンでは、この子のバギーの中からゴキブリが一斉に何匹も出てきたため、他の参加者ももう我慢の限界という感じである」というものであった。

早速、次のサロンの開催日に社協の担当者が訪問し、サロン終了後に A さんから聞き取りをした。事前に、リーダーが A さんに、「今日、社協の人がサロンを見に来てくれるので、せっかくの機会だから困っていることをいろいろ相談したらいいよ」と事前に話してくれていた。

A さんは、最初は「とくに困ったことはありません」と言っていたが、徐々に今の生活ぶりや家族のことについて話し始めた。面談の最後に、「もしよければ、一度家庭訪問さ

せてほしい」との旨を伝えると、「家の中があまりにも散らかっているので、少し片づいたら連絡する」という返事だった。

この聞き取りの際、「お金がなくて困っている」という強い訴えがあったことから、Aさんに自立相談支援機関の説明をしたところ、承諾をもらったので、N市の自立相談支援機関に連絡をとった。

数日後、Aさんから連絡があり、自立相談支援機関の相談支援員、社協の担当者、日頃からAさんのことを気にかけてくれている民生委員の3人で家庭訪問を実施することになった。その後、自立相談支援機関の相談支援員が中心となって、関係者と連携しながらAさん家族に働きかけることになった。

### 〔この家族について明らかになったこと〕

Aさん宅への家庭訪問や初期の面接等をとおして、この家族について明らかになったことは以下のとおりである。

- Aさんは、人なつっこい性格である。ただ、Aさんの話す内容や話し方、家の様子、母親としての言動等、総合的に判断して、軽度の知的障害があるように思われる。
- 賃貸アパートに住んでいるが、玄関からゴミが山積み。座る場所もない。炊事場や浴室内にもゴミがあふれている。布団は敷きっぱなし。家族はゴミの中で生活しているという感じで、衛生的にも劣悪な状態。Aさん自身は、料理や掃除は自分でやっていると話す。
- Aさんは、「お金がなくて困っている」と何度も話す。携帯電話の料金が払えず、携帯が使えなくなることがよくある。一方で、Aさんと子どもたちとで外食にはよく行くという。
- 食事を作った形跡はまったくない。ジュース類の缶が山積みされている。
- 長男は、小学6年生にしては小柄でやせている。学校に適応できていないようで、いじめにもあっている様子。小学1年生程度の漢字が書けない。落ち着きもなく、幼稚な遊びが多い。Aさんは、中学進学後のことを心配している。
- 長女は、腎臓病の疑いがあるので大きな病院で精密検査を受けるように言われているが、まだ行っていない。Aさんは、心配はしているがなかなかその時間がないと話す。
- 世帯の収入はきわめて不安定である。Aさんの夫（Bさん）の仕事は配線工事の下請けで、仕事がある時とない時がある。
- Bさんの帰宅はいつも遅い。ほとんど寝に帰るだけの毎日。仕事で遅いのかどうかもよくわからない。お酒を飲んで帰ってくる時もある。それに合わせて生活しているため、家族全員が夜中の2時頃まで起きていることが多い。
- Bさんは口数が少なく、夫婦の間でも会話はほとんどない。
- 近隣からは日常的にゴミの問題等で苦情があり、町内会長も頭を抱えている状況。民生委員や町内会長が訪問し、Aさんにゴミ出し等の指導を定期的にするがなかなか理解してもらえないとのこと。

●シート1

個別支援の観点から、Aさん家族に対してどのような援助方針や方向性をもって臨む必要があるでしょうか。

●シート2

Aさん家族が住む地域（サロンのメンバー、民生委員、近隣住民等）にどのように働きかけていけばいいでしょうか。

●シート3

Aさん家族のことで自立相談支援機関に連絡があったから約半年が経過しました。支援計画に基づき、相談支援員や関係機関の働きかけによって、なんとか落ち着いた生活が送れています。長女も医療機関につながるなど、危機的な状況は回避できています。Aさん親子は、今でも継続的にサロンに参加しています。

Aさん家族への支援をふまえて、今後、個別支援から地域支援への展開という観点から、より広く地域社会に向け、何を課題としてとらえ、どのように働きかけていけばいいでしょうか。さまざまな可能性を検討してみてください。